

オーストラリア ブドウ生産者は伝統的な輸出品種に回帰

[FreshPlaza 2025年10月24日](#)

2024/25年度の生食用ブドウのシーズンが近づく中、オーストラリアの生産者は約1万ヘクタールの栽培面積を有している。その大部分に当たる約8千ヘクタールはビクトリア州に位置し、残りはクイーンズランド州と西オーストラリア州に分かれている。

オーストラリア生食用ブドウ協会(ATGA)のジェフ・スコットCEOは、「作柄を確定的に予測するにはまだ早いですが、昨年と同様に良好で安定したシーズンになる兆しがある。全国の生産量は昨年と同様の約23万トンと予測している。2023/24年度に生産者が直面した困難を考えると、これは励みになるニュースだ」と述べた。

スコット氏は、当初は知的財産権のある(IP)品種への関心が高まっていたが、新植のペースは減速し始めていると指摘した。同氏は、「生産者は現在、レッドグローブ、クリムゾンシードレスなどの伝統的な輸出品種を再び植えている。これらの品種は、国際市場において依然として最も高い実績を誇っている」としつつ、「とは言え、日本では新しい品種への需要が高まっている。昨シーズンには追加品種の市場アクセスを獲得し、日本への輸出量は3,500トンから1万トンへと増加した。日本市場には大きな可能性があると考えており、今シーズンもその数字を維持、あるいはさらに拡大できることを期待している」と語った。

中国は依然として最大の輸出先であり、ブドウ輸出全体の35%を占めている。インドネシアが24～25%でこれに次ぐ。日本、韓国、タイ、フィリピン及びベトナムの輸入量は互いに同程度である。

輸出の動きは、クイーンズランド州北部で11月下旬から12月初旬に始まり、ビクトリア州のサンレイシア地域では1月初旬に出荷が始まる。スコット氏は、「条件が良好に推移すれば、今シーズンは約15万トンの輸出を目指している」と付け加えた。

執筆者: ニコラ・マクレガー

チリ 2025/26年度の生食用ブドウ輸出量の減少を予測

[FreshPlaza 2025年10月24日](#)

Frutas de Chile(チリ果実輸出業者協会)の生食用ブドウ委員会は、2025/26年度シーズンの輸出量を8.2kg標準箱換算で6,330万箱と見積もる初回の輸出予測を発表した。これは前シーズンに比べて6.9%の減少に相当する。同委員会の事務局長であるイグナシオ・カバジェロ氏は、「この減少は、品種転換の加速が、従来品種の減少に追い付いていないためである」と述べた。

報告書によると、新しい品種は総輸出量の71%を占める見込みであり、前シーズンの67%から増加する。新しい品種は合計で4,490万箱を超えると予想され、従来品種は870万箱、レッドグローブ品種は950万箱と見込まれている。この予測は、同委員会に関連する企業から提供されたデータに基づいており、それらの企業は前シーズンにチリの生食用ブドウ輸出の83%を占めた。

同氏は、「今シーズンは白ブドウ品種の比率が増加し、総出荷量の40%を占める見込みである。一方、レッドグローブなどの品種は減少し15%減の950万箱となる」と強調した。報告書は、白ブドウ品種が2,510万箱を超え、赤ブドウ品種(レッドグローブを除く)は2,330万箱、黒ブドウ品種は約490万箱になるとしている。

業界では、ティムコ、アリソン、スイートセレブレーションを筆頭に1,840万箱の赤ブドウ新品种の出荷を見込んでいる。白ブドウ品種は2,280万箱に達し、アッラ15、ティンプソン、スイートグローブが主力となる。黒ブドウ品種はスイートフェイバーズ、サーブル、スイートサファイアを主体に400万箱を超える可能性がある。

報告書は、相対的に栽培面積の大きいコキンボ州とバルパライソ州を始めとして、栽培面積の全体的な減少が見られることを示している。また、第6週(2月上旬)から第10週(3月上旬)にかけての輸出量の増加が予測されているが、ピーク時の数量は前シーズンよりも少なくなる見込みである。中南米諸国向けの出荷量が14%増加する一方で、アジア及び北米向けはそれぞれ18%及び9%の減少が予想されている。

出典: frutasdechile.cl